

英文法の全体像

- 「おやびん式英文法」では、英文法には以下の5段階しかありません。(一年後に全ておぼえていれば十分です)
 1. ○(主語)+□(動詞)+ピリオド
 2. □の操作
 3. ▽(準動詞)及び△(その意味上の主語)
 4. 複数の○□の接続
 5. より高度な表現
- たったこれだけで、中高6年分の文法は全てカバーできます。
 - だからこそ、これらを徹底的に反復し、九九のようにいつでも再現できるようになることを、このクラスでは目標にします。
- 文法は、意味、形、働き(どんなときに使うか)の3つを押さえるのがコツです。

発音の基礎

- 「正しい発音」と「流暢(ペラペラ)な発音」は違います。正しい発音であれば、必ず通じます。一方、流暢だけれど間違っている発音は、通じません。正しい発音を身につけるのが、語学の基本です。最初はごちなくて、だんだん慣れます。気にすることは全くありません。
- 正しい発音とは、以下のことです。
 - 口の形及び動きが正しい。
 - 舌の位置及び動きが正しい。
 →すなわち、「正しく発音する」とは、「口と舌を正しく動かす」ということです。ていねいにやれば、必ず、誰でもできるようになります。
- 母音と子音を合わせて、英語には40以上の音があります。一方、日本語には20しか音がありません。しかも、英語には、日本語にない音がたくさんあります。日本語と似ているけれども異なる音もたくさんあります。だから、日本人が英語の発音を苦手とするのは当然なのです。
- 人は、聞き取れる音しか発音はできませんし、発音できる音しか聞き取れません。だから、ただ音声聴くだけでは、聴く力(リスニング力)は向上しません。発音を磨き、正しい音を出せるようになってこそ、リスニング力も上がります。

英文法の第1段階①「be 動詞」

- ピリオドから次のピリオドまでを一文(ワンセンテンス)といいます。
- 「○(主語)+□(動詞)+ピリオド」、すなわち「ワンセンテンスに○と□がひとつずつ」が、英文法の第一のルールです。
 - ◇ 英文法に出てくる細々とした規則の大半は、このルールを具体化したり、例外をできるだけ作らないようにしたりするためにあるというのが、「おやびん式英文法」の考え方です。
- 動詞には、be 動詞(ある/である)と一般動詞(～する)があります。
- be 動詞の現在形の活用は以下の通りです。

	単数	複数
一人称(私/私たち)	I am	we are
二人称(あなた/あなたたち)	you are	you are
三人称(彼/彼女/それ/彼ら/それら) ～「私」と「あなた」以外の全てを指します	he/she/it is	they are

- be 動詞には「ある」「である」の2つの意味があるので、注意が必要です。
 - I am here. (私はここにいる)～ある
 - I am a student. (私は学生だ)～である
- 上の表にあるように、be 動詞は人称と単複によって活用し、形が変わるので、おぼえる必要があります。
 - I am Japanese. (私は日本人だ)
 - You are Japanese. (あなたは日本人だ)
 - He is Japanese. (彼は日本人だ)
 - We are Japanese. (私たちは日本人だ)
 - They are Japanese. (彼らは日本人だ)
- ※ you は単複同形なので、文脈によって単数か複数かを判断します。
- I am は短縮形 I'm になることがよくあります。
 - I am here. → I'm here.

英文法の全体像～復習

- 「おやびん式英文法」では、英文法には以下の5段階しかありません。(一年後に全ておぼえていれば十分です)
 1. ○(主語)+□(動詞)+ピリオド
 2. □の操作
 3. ▽(準動詞)及び△(その意味上の主語)
 4. 複数の○□の接続
 5. より高度な表現
- たったこれだけで、中高6年分の文法は全てカバーできます。
 - だからこそ、これらを徹底的に反復し、九九のようにいつでも再現できるようになることを、このクラスでは目標にします。
- 文法は、意味、形、働き(どんなときに使うか)の3つを押さえるのがコツです。

英文法の第1段階②「一般動詞」

- 【復習】ピリオドから次のピリオドまでを一文(ワンセンテンス)といいます。
- 【復習】「○(主語)+□(動詞)+ピリオド」、すなわち「ワンセンテンスに○と□がひとつずつ」が、英文法の第一のルールです。
 - ◇ 英文法に出てくる細々とした規則の大半は、このルールを具体化したり、例外をできるだけ作らないようにしたりするためにあるというのが、「おやびん式英文法」の考え方です。
- 【復習】動詞には、be 動詞(ある/である)と一般動詞(～する)があります。
- 【復習】be 動詞の現在形の活用は以下の通りです。

	単数	複数
一人称(私/私たち)	I am	we are
二人称(あなた/あなたたち)	you are	you are
三人称(彼/彼女/それ/彼ら/それら) ～「私」と「あなた」以外の全てを指します	he/she/it is	they are

- 一般動詞の現在形の活用については、「三人称単数の場合のみ、動詞の末尾にsをつける」と頭に入ればOKです。
I come. (私は来る)
She comes. (彼女は来る)
- ※ なお、これらの文は、実は不自然です。理由については、動詞の操作についてこれから学んでいくにつれて明らかになります。今のところは、「現在形を理解するための(不自然な)例文」とだけ頭に入れておけばOKです。
- ただし、例外がいくつかあるので注意が必要です。
 - 末尾にesがつく場合(-ch, -sh, -ss, -oなどで終わるとき)
I go. (私は行く)
He goes. (彼は行く)
他に、do(する) → does, pass(通る/渡す) → passes, teach(教える) → teaches, wash(洗う) → washes など
 - yがiに変化し、iesとなる場合(動詞の末尾が「子音字+y」のとき)
I study English. (私は英語を勉強する)
She studies English. (彼は英語を勉強する)
他に、fly(飛ぶ) → flies など。
※ play(遊ぶ), buy(買う)など「母音字+y」で終わる語はそのままsをつけます。また、have(持っている)の場合はhasにします。
※ この「三人称単数現在形」のみを例外とするルールについては、アメリカでは撤廃が議論されています。
- 英語の基本5文型をおぼえましょう。
 - 特に、最初の3文型には、学年が下のうちからしっかり取り組んでおきましょう。(後の2文型は、上の学年になってからでOKです)

① S+V(SはVする)	He speaks. (彼は話す)
② S+V+C(SはCである)	She is Thai. (彼女はタイ人だ)
③ S+V+O(SはOをVする)	I help you. (私はあなたを手伝う)
④ S+V+O ₁ +O ₂ (SはO ₁ にO ₂ をVする)	She gives me a book. (彼女は私に本をくれる)
⑤ S+V+O+C(SはOをCにVする)	You make me happy. (あなたは私を幸せにする→あなたのおかげで私は幸せだ)